児の発育障害に関する心身医学的研究

堀　口　　文（独協医科大学産婦人科）

母体の心身医学的背景による胎児の発育障害を研究する目的で，胎児の発育遅延，流早死産，母体合併症（妊娠中毒症，肥満，糖尿病，甲状腺疾患その他の内分泌疾患，高度貧血，及び精神病），drug 常用（向神経薬，シンナー，大麻，覚醒剤，アルコール及び煙草など）及び妊娠中に著しい不安やストレス環境の変化があった妊婦について調査する。

昭和58年度の計画は，これら妊婦に心理テスト（ＣＭＩ健康調査，ＹＧ性格テスト及び文章完成テストなど）及び面接を行って，妊婦の心的背景について調査する。

妊娠中の不安，ストレス，夫や姑との不仲，夫や実父，或はその他の家族との分離，夢がみられた場合，感情の変化，身体の変化，睡眠状況，日常生活の状況等を記録させる。昭和59年度は妊婦の異常行動例として，食行動の異常（特に糖尿，肥満，中毒症で，食事制限ができないもの）について，血中蛋白，糖，ビタミン及び鉄など生化学的検討と栄養士による食事療法を行い，drug 常用及び経験者に肝，腎及び神経等の機能検査を行い，又合併症の発生状況を検索する。

又心身医学的神経系症状としてアドレナリン，カテコールアミン，βエンドルフィン，エンケファリン及びアンジオテンシン等の測定を行う。

胎児例の情報として分娩監視装置による胎児心拍異常と循環器系症状の発見につとめ，母子自律神経の相関について調査する。超音波断層法により径日的な胎児発育状況，及び胎児行動のパターンを観察する。

昭和60年度には，分娩前後における妊産婦の心理的背景の調査，胎盤及び臍帯を含む母子間の形態的，及び生化学的方面の検討を行い新生児及び乳児の発育状況について追跡する予定である。